

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名 ピュアラインⅢ・ナノデス	投球者 徳江 和則	センター 平和島スターボウル
RG 2.460	△RG 0.051	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

テストボール：ピュアラインⅢ・ナノデス

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

PAPからピンとの距離 番

4 インチ

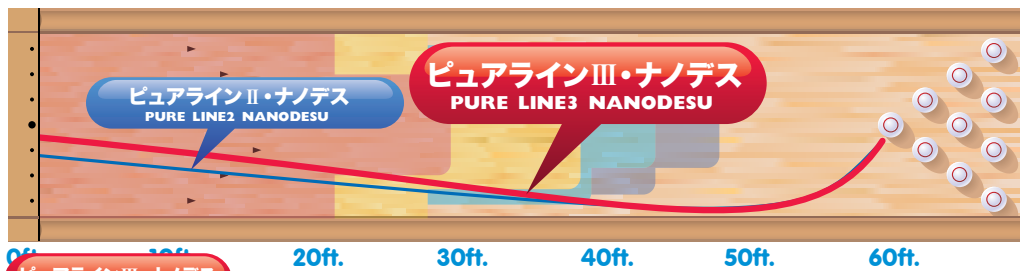
比較対照ボール：ピュアラインⅡ・ナノデス

フレアーの幅 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

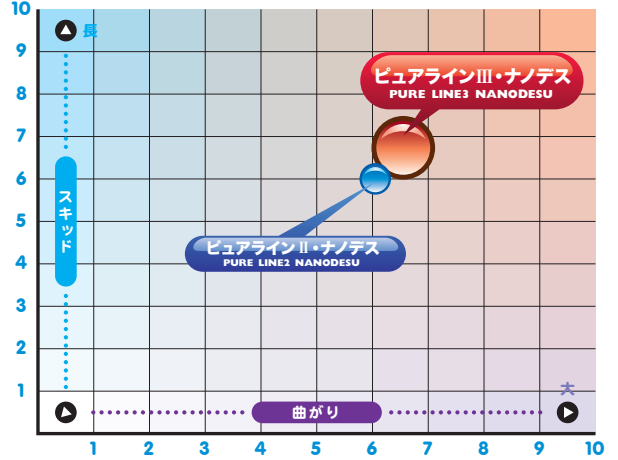
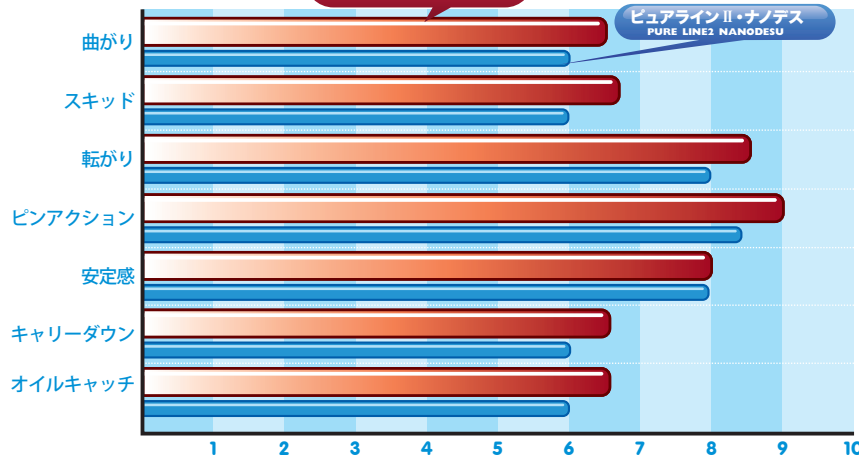
PAPからピンとの距離 番

4 インチ



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ

ピュアラインⅢ・ナノデス
PURE LINE3 NANODESU



レーンコンディション	バックエンドリアクション	レンジス
Light Oil	Smooth	Early Roll
Light to Medium	Smooth to Arc	Early to Med
Medium Oil	Arc	Med-Lane
Medium to Heavy	Arc to Sharp	Med to Late
Heavy Oil	Sharp Angle	Late Roll

ボールの評価

現在流通しているリアクティブ素材は、メーカー毎にベースとなるウレタン素材に独自の配合比で添加剤を加えた、いわゆる「ケミカルチューン」は以前からまして多様化し、各々の方向性でさまざまな性能を生み出しています。当時にレーン上で表わされるパフォーマンスも向上し、メーカー発表のパフォーマンスを得るためには「そのボールに必要なオイル」が不可欠であり、多くのボールの性能の差を同じコンディションで見出しにくくなったとも言えます。進化とともにオイルの有無に左右されやすいボールリアクション。であるからこそ、このナノデスPure-LINE3が必要なのです。

まずはじめにこのPure-LINE3は皆さんがウレタン素材に連想する「曲がらないボール」ではないこと。日本エポナイト社から供給される高品質のウレタン素材はコアテクノロジーのネジレをしっかり受け止め、スムーズな軸移動を完了させます。このPure-LINE3は現在のリアクティブ素材が高性能になり過ぎたからこそできるオイル有無の段差、オーバーリアクションを軽減させ、リアクティブ素材ではすでに向くことのできない方向へ投球できることが多くの板目を使うことを避けられ、スムーズなアジャストをさせてくれるでしょう。そして今回私が最も着目したピンアクションは、とてもウレタン素材とは言えないほど低く柔らかく、まるでハイパフォーマンスボールと同レベルに感じる仕上がりで、ウレタン素材でこれ程まで向上させられるものかと日本のテクノロジーに驚きを隠せません。

コンディション変化の過程で中目へアジャストする方向もあれば、ローテーションを効かせながら外を大きく回すことができるのもウレタン素材のボールの利点であり、このPure-LINE3を持つことでアジャスト幅を広げる取り組みもしてください。

特記事項

このナノデスPure-LINEは3弾でウレタンの融通性、効率性及びピンアクションまで飛躍的に向上させました。違ったオイルの感じ方を経験するためのツールとしてお役立てください。